

位置付け

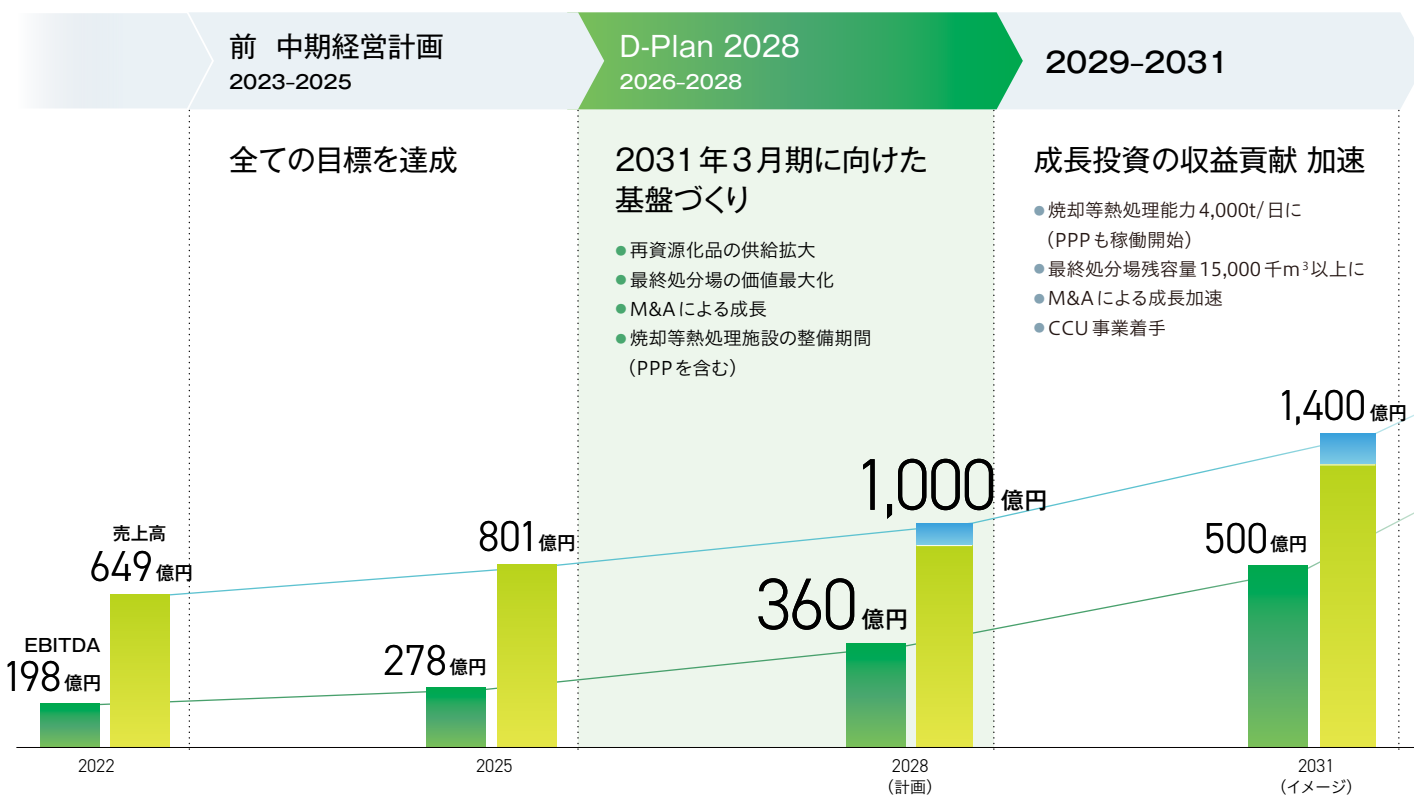
2031年3月期に向けた基盤づくりを実行する中期目標としての「D-Plan 2028」

大栄環境グループは、2026年3月期を初年度とする3カ年の中期経営計画「D-Plan 2028」を策定しました。

この計画は、6年後の2031年3月期に向けた基盤づくりを、前半3年間で実行するという位置付けです。

目指す姿に向けて、オーガニック成長や M&A によって着実に成長しつつ成長投資を継続します。

2031年3月期までのロードマップ



EPS(1株当たり当期純利益)の最大化を図る

売上高 CAGR
2026年3月期-2028年3月期(計画) 7.6% → 2029年3月期-2031年3月期(イメージ) 11.9%

EBITDA CAGR
2026年3月期-2028年3月期(計画) 9.0% → 2029年3月期-2031年3月期(イメージ) 11.6%

営業利益
2025年3月期 215 億円 → 2028年3月期 250 億円
CAGR 5.1%

営業利益率
2025年3月期 26.9% → 2028年3月期 25.0%以上

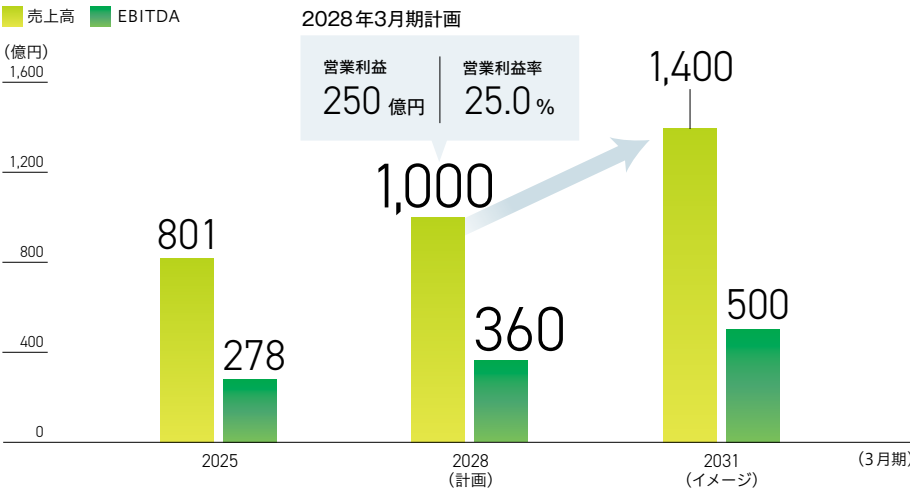
EBITDA マージン
2025年3月期 34.7% → 2028年3月期 35.0%以上

EPS
2025年3月期 145.54 円 → 2028年3月期 169.46 円
CAGR 5.2%

戦略サマリー

カーボンニュートラルや循環経済への移行などの社会課題に取り組みつつ、大栄環境グループが持続的な成長を実現していくために、2024年6月に5つの重要課題(マテリアリティ)を特定しました。
「D-Plan 2028」では、重要課題(マテリアリティ)の解決に向けて、成長施策と経営基盤強化施策を実行します。

売上高・EBITDAの中期目標



キャッシュアロケーション

		成長投資	
手元資金+借入	290 億円+α	M&A	100 億円+α
		成長領域への投資	360 億円
3年間の 営業CF累積	850 億円	維持更新投資	140 億円
		借入の返済	380 億円
		株主還元	160 億円+α

戦略の概要

成長 施策	D-Plan2028より 収益貢献	資源循環システムの高度化	動脈市場への供給拡大を通じた 再資源化事業の収益拡大
		自治体との関係深化	最終処分場の価値最大化 (容量当たりの売上高最大化)
		M&Aによる事業エリアの拡大	シナジー(受入量拡大)が見込める 案件を積極的に実行
	2031年3月期 に向けた施策	焼却等熱処理施設能力の拡大	施設能力4,000t/日に向けて 5件のプラント着工
		最終処分場の 年間埋立計画量と残容量拡大	年間埋立量の拡大に向けて 新規エリアでのM&Aを推進
経営基盤強化 施策			既存エリアでの新增設計画を推進
		公民連携事業(PPP)の推進	累計7件 協定締結
		人的資本経営推進	従業員エンゲージメント最大化
		グループ経営力向上	ガバナンス・リスク 管理体制のさらなる強化

売上拡大戦略の要点

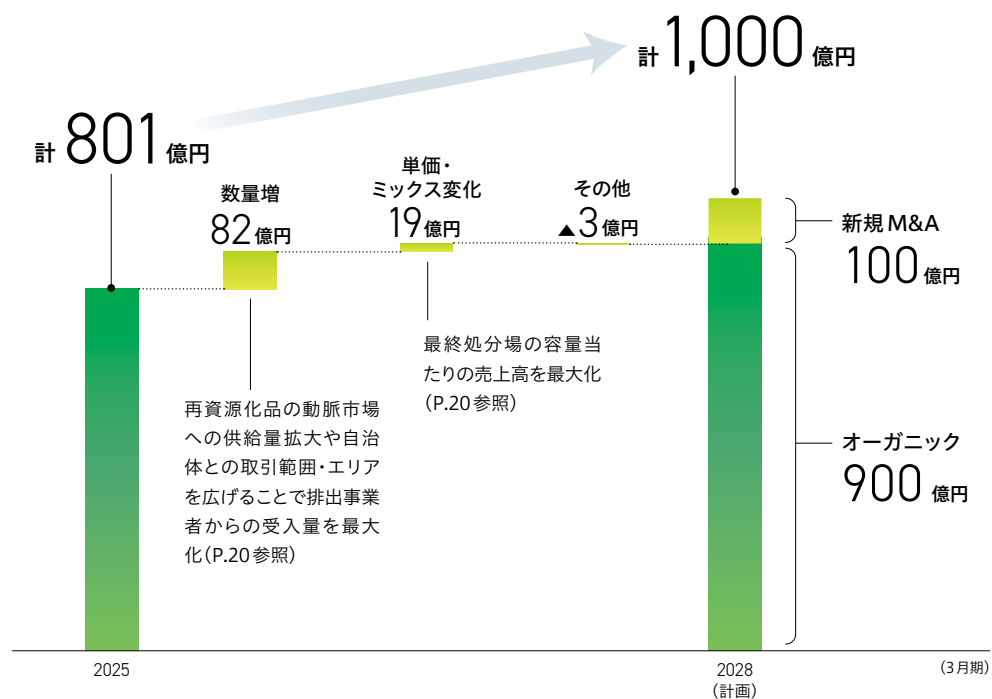
「オーガニック」と「インオーガニック」の双方で成長

「D-Plan 2028」では、オーガニックで約100億円、新規M&Aにより約100億円の増上を計画し、売上高1,000億円を目指しています。

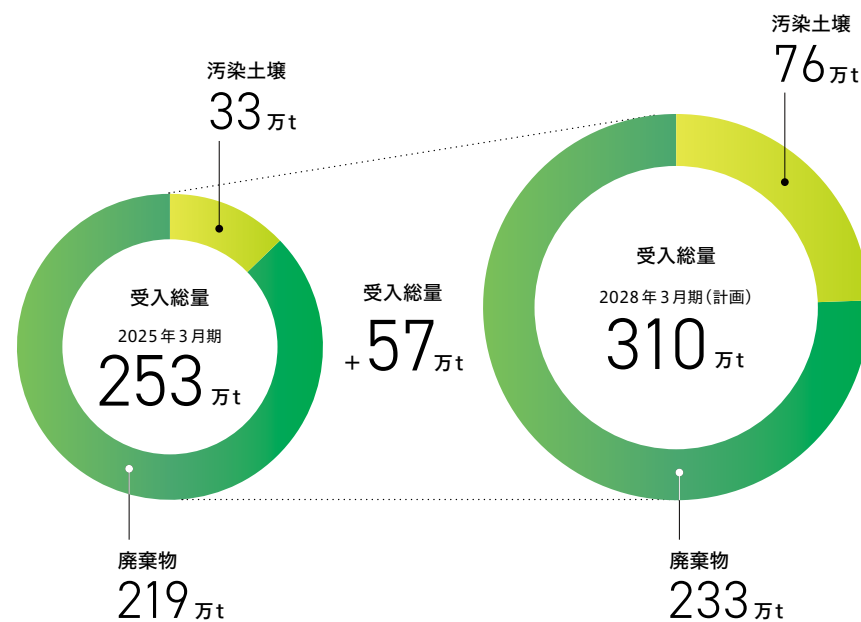
その鍵を握るのが、受入量の拡大であり、廃棄物、汚染土壌ともに拡大していきます。

オーガニック成長による内訳としては、数量の増加によって約82億円、単価やミックス変化によって約19億円の売上高拡大を見込んでいます。

売上拡大の計画



受入量拡大の計画



収益貢献の要点

「資源循環システムの高度化」による、受入量の最大化と最終処分場の価値最大化

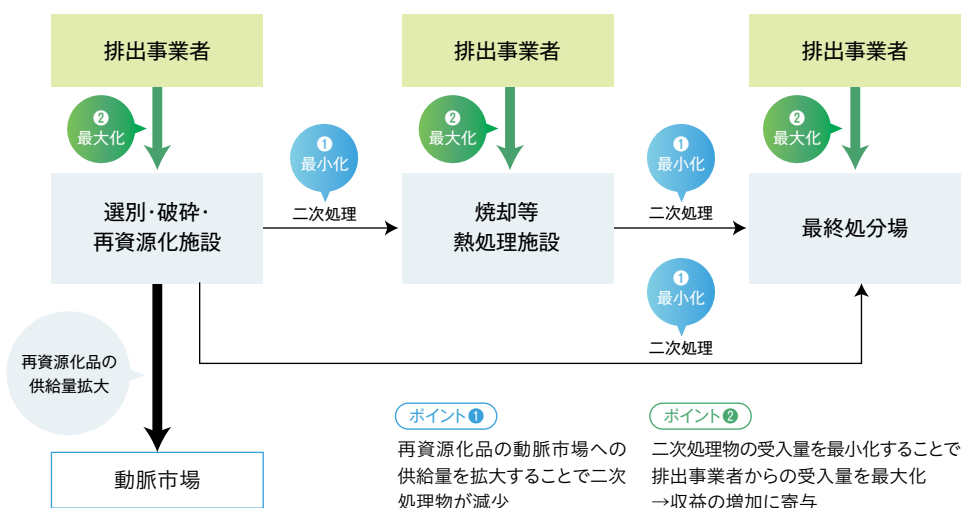
「D-Plan 2028」における収益貢献施策として、自治体との関係深化、M&Aに加えて「資源循環システムの高度化」に注力していきます。再資源化品の動脈市場への供給量を拡大することで二次処理物が減少し、排出事業者からの受入量拡大につながります。

また、最終処分場で処分している廃プラスチックなど低付加価値物が一定割合残っています。低付加価値物の再資源化を進めることで高付加価値物の割合を高め、最終処分場の価値最大化を図ります。

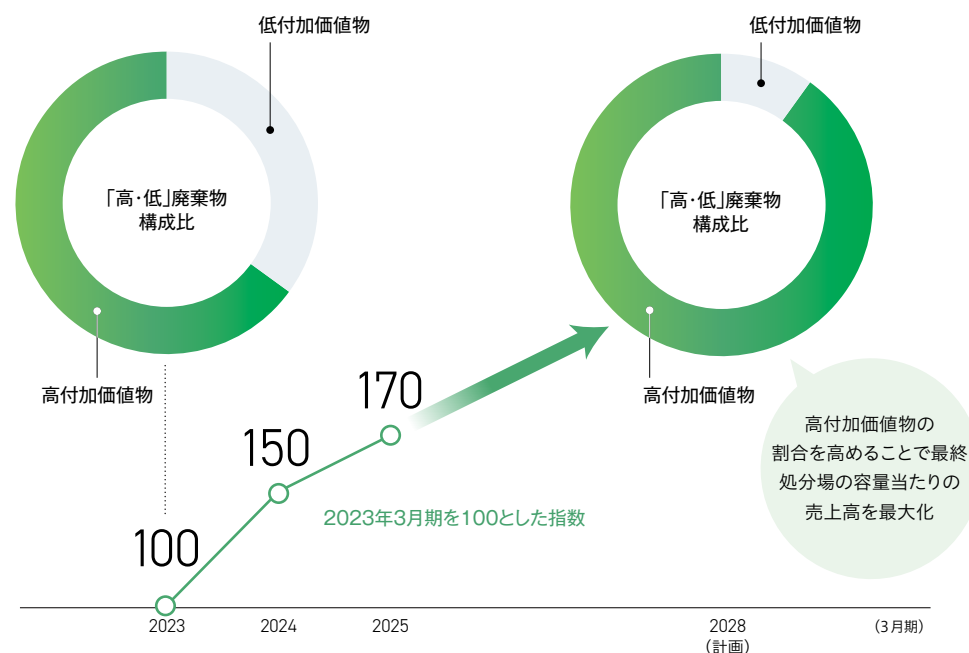
これらは、2031年3月期の目標達成に向けた基盤づくりであり、持続可能な成長に向けて取り組んでいきます。

動脈市場への供給量拡大 → 排出事業者からの受入量最大化

→ 収益の増加に寄与する受入 → 収益の増加に寄与しない受入



最終処分場の容量当たり売上高の推移と、「高・低」廃棄物構成比の変化



高付加価値物とは

- 「焼却灰」「埋設廃棄物」など、比重の大きいもの
- 「廃石綿等」など、高単価なもの

低付加価値物とは

- 「可燃物」「プラスチック」など、比重の小さいもの
- 「汚染土壌」など、低単価なもの